

ぶらっと山歩（さんぽ）
コロナウィルス騒動からの脱出/
～布引周辺について書き忘れていたこと～

写真と文 吉野 宏

市ヶ原にある桜茶屋から、ハイキング道を少し奥に入った所に、東屋で囲われた井戸がある。今は神戸ウォーターの一滴すら出ていないが、私がヒヨコに入って間の無い頃には未だ汲むことが出来るぐらいの水は湧き出していた。市ヶ原の奥にある砂止め辺りで幕営する時はこの井戸の水をポリタンに入れて運び、飲料水にしたものだ。しかし、新神戸トンネルや北神急行トンネルなどの度重なる工事によって水脈が断ち切られたのが全く出なくなったのは大変残念だ。

今は亡きKさんからたびたび聞いていたこの井戸の歴史を記しておこう。



神戸ウォーターが出ていた井戸のある東屋
その奥に役行者の祠がある

その昔、山田の里（今の北区山田町）から灘七郷（当時は七ヶ村あった）への酒米は、牛馬の背に乗せ布引谷を下っておたらしく、市ヶ原天狗狭（少し奥にある堰堤付近）にさしかかると、片方は山が迫り、一方は深い溪の険しい道であったため人馬が命を落とすこともたびたびあって困っていた。それを知った熊内村の有志の人達が、井戸の傍に役行者をお祀りして通行の安全を祈願されたら不思議に危難を免れたとのこと。それからこの井戸水は霊水として明治の末頃まで大切に愛飲されていた・・・とのことであった。

さて、布引と言えば落差 43 メートルある高さから天女の衣が優美にながれるような姿で魅了する雄滝であろう。この滝については皆さんの知るところであるゆえに割愛するが、古来から「名勝・布引の滝」として知られてきたこの地は、平安時代から数多くの貴族や歌人たちが訪れ、多くの名歌が詠まれました。



後鳥羽院の歌が刻まれた歌碑（みはらし台入口）

布引のたきのしらいとうちはへて
たれ山かぜにかけてはすらむ
後鳥羽院

・・・素敵な歌ですね！

明治の初めごろ「花園社」という市民団体が滝の周辺を布引遊園地とし、平安時代から江戸時代にかけて詠まれた布引の滝の名歌の碑三十六其を建てたましが、これらはその後散逸してしまっただ。その後神戸市が順次復旧を進め、平成 19 年にはすべての歌碑が復旧しました。

歌碑は布引の滝周辺からぬのびき花街道、旧西国街道や HAT 神戸を結ぶ散策ルート上に設置され、「歌碑のみち」として親しまれています。（中央区まちづくり推進課資料より）

文学と歴史の散歩道である布引周辺を是非ゆっくりと訪れていただきたいものです。